第5回
全国高校生
社会イノベーション選手権

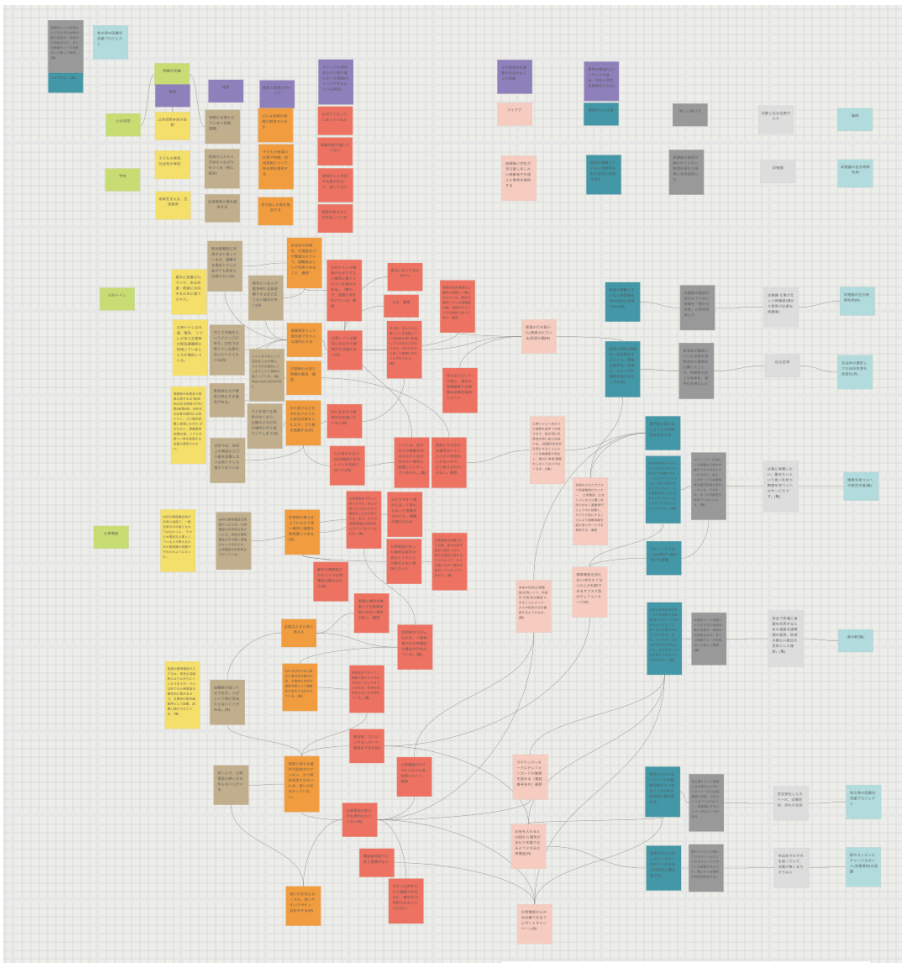
大会終了報告書

問題分析編：2022年 6月1日(水)～7月12日(火)
イノベーション編： 2022年 8月16日(火)・17日(水)

東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 主催
(一社)日本社会イノベーションセンター/ (一社) i.school 共催

目次

p.3 大会概要
p.5 活動報告
p.9 問題分析編
p.15 イノベーション編
p.20 大会広報
p.21 審査員
p.23 審査員業務について
p.24 決算
p.25 参加した高校生の感想
p.26 実行委員学生の感想
p.27 イノチャン本大会に関連した取り組み
p.29 来年度以降に向けて



▲イノベーション編で用いたオンライン付箋ツール ”APISNOTE”

▲イノベーション編当日の様子

大会概要

イノチャンとは

全国高校生社会イノベーション選手権（以下イノチャンと表記）は、イノベーションを学び実践する場を高校生に提供することを目的として設立された大会です。5回目の開催となる今大会には全国38チームから応募があり、そのうち問題分析編を通過した12チームが8月16日（火）・17日（水）にWeb会議ツールZoom上で行われたイノベーション編に出場しました。イノベーション編では、「市民や社会のニーズに応える公共空間の新しい使い方」をテーマに主催者が設計したワークショップ（WS）に従ってアイデア発想に取り組みました。普段の授業では扱わない課題に悪戦苦闘する姿も見て取れましたが、どのチームも互いに協力して最終的には優劣のつけ難い素晴らしいアイデアを創出することができました。

大会日程

6月1日(水) 問題分析編応募開始
7月12日(火) 問題分析編締め切り
8月1日(月) 問題分析編結果発表
8月16日(火) イノベーション編1日目
8月17日(水) イノベーション編2日目

運営組織

主催：東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻
共催：一般社団法人　日本社会イノベーションセンター
　　一般社団法人　i.school
運営：全国高校生社会イノベーション選手権実行委員会

イノチャンコンセプト

「みなさんが社会を変える。イノチャンはその第一歩なのです。」

「みなさんが社会を変える。」この一文を読んで、「高校生の私に社会を変えることなんて果たしてできるだろうか」と思ったかもしれません。確かに社会で様々な経験を積んだ大人は、高校生ひとりひとりよりも社会や科学技術についての知識量、あるいは課題を正確に理解し解決するスピードにおいて勝るかもしれません。では同級生数名で協力して、ならばいかがでしょうか。教室を見渡してみてください。それぞれ異なるバックグラウンドや得意分野・興味関心を持っていますよね。みんなの知識や経験のかけらを集結させると何か新しいイノベーションが生まれそうな気がしませんか？

イノチャンでは様々な分野で学んだ知識はもちろん、自分や周りの人の体験を組み合わせることで“社会イノベーション”を起こす新しいアイデアを作り出してもらいます。社会イノベーションとは社会問題の解決、あるいは新しい価値の実現を目標とした、新たな技術や仕組みの導入により生まれる人々の行動や態度の波及的変化のことです。社会イノベーションによってもたらされる効果は私たちの生活そのものに直結しているため、特定の学問分野に執着する必要はありません。また人々がどう感じるのか、どのような体験が得られるか想像することが極めて重要となります。

私たちは、イノベーションは既存の技術やアイデアの組み合わせによって生まれると考えています。全く新しいと思われるアイデアでも、実は既存の知識や技術の組み合わせによってできているのです。つまり、一人の天才発明家が何もないところからアイデアをもたらすことは極めてまれで、高校生の皆さんが今まで学んできたことを生かして新しいアイデアを作り出すことは十分可能なのです。その組み合わせを思いつくために今までの学びの片鱗が役立ちます。常にアンテナを張って多くの情報に接すること、時には他の人の話を聞いて新たな価値観に触れることでたくさんの引き出しを持つことができます。ただし、それだけではアイデア発想には不十分なのです。私たちが地道にアイデアを生み出すためにはある一定の思考プロセスを経ることが極めて重要なのです。決められた思考方法のもといくつかアイデアを出すことで、複数のアイデアを一定の土俵の上で比較検討し磨きをかけることができます。また本当に必要な知識や視点は何だったのか振り返ることでアイデア発想の方法論そのものを改善し以前と全く違うアイデアにたどり着くことができます。このような一連の流れを高校生の皆さんが実践する場としてイノチャンが誕生しました。

イノチャンは社会イノベーションのアイデアとその創出プロセスを競う高校生を対象とした全国大会です。情報収集・分析に基づいた課題の本質を見抜く技能や、唯一無二の正解のない課題に対して互いを尊重しあいながらチームでアイデアを議論する力を養っていただければと思います。中等教育で総合的な学習・探究の時間に力が注がれるなか、その一助としてイノチャンが機能できれば幸いです。高校生の私たちがアイデアを考え抜く、そのアイデアを全国の高校生と共有し新しい視点や価値観を得る。そんな刺激的な体験の場への皆さんの奮ってのご参加を心よりお待ちしております。

活動報告

実行委員会について

当大会は全国高校生社会イノベーション選手権実行委員会によって運営されています。実行委員会は社会基盤学専攻に所属する学生有志を中心として17名（修士課程5名、学部課程12名）により構成されています。2017 年の10 月に実行委員会が設立され、大会開催に向けた運営が始動しました。プロジェクト全体を統括する「運営部門」、大会の経理を管理する「財務部門」、大会の課題やワークショップを設計する「レギュレーション部門」、高校やメディアへの広報を行う「広報部門」、審査員や協賛企業の方々との連絡をとりもつ「渉外部門」などの部門が設置され、各部門が互いに連携をとりながらイノチャンの運営を行いました。今年も引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大の下でしたが、社会基盤学専攻の教員や共催団体の関係者、その他大学内外様々な方からの助言や支援を得て、第5回大会を開催致しました。昨年のオンライン形式の教訓を活かしながら、遠く離れた中でもイノベーション教育の一端を担うことができたと考えております。

実行委員会名簿

代表　三田村大我（学部4年）
修士2年　稲富翔伍(WS設計)・小松黛芽(審査員/HP)・錦織大輔(財務・参加者管理)
修士1年　黒木文香(協賛)・野口俊亮(WS設計)
学部4年　赤星萌(WS設計)・林亜琉斗(WS設計)・松谷春花(WS設計)・渡邉俊介(WS設計)
学部3年　岡田朋也(参加者管理)・侯東郡(協賛)・名畑諒介(参加者管理)
学部2年　安部優希奈(審査員)・近恵里奈(広報)
学部1年　大宮拓朝(参加者管理)・永原新也(協賛)
（）は担当部門

運営構造

主催 東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻	共催 （一社）i.school （一社）日本社会イノベーションセンター

実行委員会	理事会	
運営部門 財務部門 レギュレーション部門 広報部門 渉外部門	社会基盤学専攻長 布施孝志 大会プロデューサー 小松崎俊作	i.school エグゼクティブ・ディレクター/ 日本社会イノベーションセンター代表理事 堀井秀之

各部門の活動内容

運営

運営部門では、昨年同様運営ミーティングをはじめとして、問題分析編、イノベーション編の当日の運営まで全てオンラインで実施いたしました。特にイノベーション編においては各地域から個別に参加する高校生に対して最大限配慮し、メール等での十分なやり取り・接続試験などの事前準備に加え、大会当日も各チームへ実行委員を配置するなど、不測の事態に迅速に対応できるよう態勢を整えました。審査員講演・オンライン懇親会の実施など、参加いただく高校生や先生方はもちろん、実行委員や審査員・オブザーバーの方を含むすべての方に大会に参加したのだと満足いただけるよう尽力いたしました。

財務

財務部門では大会資金の管理を行いました。共催団体である(一社)日本社会イノベーションセンター(JSIC)に振り込まれる企業協賛金をJSIC の経理の方と共同で管理し、大会予算の作成と、実際にかかった経費の集計をいたしました。そして、大会を適切な予算の範囲内で実行できるよう努めました。

レギュレーション

レギュレーション部門では大会当日の運営方法や高校生に課す課題の検討を行いました。
イノチャンを各自で事例を分析する問題分析編とその場でアイデアを考えてもらうイノベーション編に分けて実施しました。
問題分析編では、身の回りの公共施設の調査や、具体的な人物設定から社会ニーズを抽出することを通して公共空間の抱える問題や可能性を分析していただく設問としました。イノベーション編では、問題分析編での分析をもとにテーマである「市民や社会のニーズに応える公共空間の新しい使い方」に対するアイディアを二日間で考えていただきました。Zoomを用いて各高校や各家庭を繋ぎ、Apisnoteというオンライン付箋ツールを活用いたしました。
イノチャン委員をディスカッションパートナーとして、それぞれのグループ用に開設したZoomミーティングに配置し、議論のファシリテーションを担いました。このディスカッションパートナーの進行にしたがって高校生はワークショップに参加して議論に臨みました。
今大会全体を振り返ると、オンラインでありながら議論が白熱したチームが多く、実りのある大会になったのではないかと考えております。本年の経験を次年度にも引き継ぎ活かしていきたいと考えております。

広報

広報部門では教育機関や外部メディアに向けての広報と、オブザーバーの募集を担当いたしました。
東京大学工学部広報室様のご協力の元、工学部のホームページに参加者募集の案内を掲載していただいたことに加え、Facebookやイノチャンホームページを通じての広報を行いました。さらに、テレビ局やオンラインメディアにオンラインフォームとメールによる問い合わせを行いました。朝日新聞社教育総合本部教育事業部の方には、大会当日取材に来ていただきました。
オブザーバー制度を昨年に引き続き今年度も採用し、Facebookに案内を掲載したほか、メールにて各教育機関への参加を募集致しました。また、東京大学工学部広報室様にご協力いただき、工学部のホームページ、Twitter 及びFacebookに掲載していただきました。
今後は、新聞やテレビなどの各種メディアを通じて、さらに多くの高校生や保護者の方、教育関係の方の間に、イノチャンの認知を拡大していきたいと思います。

渉外

渉外部門では企業協賛による大会資金調達を行いました。本年は6社の企業様から協賛をいただき、各企業様へオンラインにてご挨拶に伺ったり、協賛決定後のやりとりや請求書の作成を行ったりしました。コロナ禍という諸事多難な折に本大会の趣旨にご賛同いただき、協賛していただきました企業様にはここに厚く御礼申し上げます。
また、渉外部門では本大会での高校生のアイデアやWSのプロセス、プレゼンテーションを評価していただく審査員の方々への対応も行いました。審査員の方々の選定から始まり、メールを通しての依頼、そして当日の対応までを行いました。今大会では、テーマである「市民や社会のニーズに応える公共空間の新しい使い方」およびイノチャンの主目的である「イノベーション教育」をキーワードとして、それぞれの分野の第一線で活躍されている専門家の方々をお招きしました。本報告書に後述いたしますように、荒井 詩穂那様、上田 假奈代様、澁谷 遊野様、堀井 秀之様の4名に審査員としてご協力いただきました（加えて、本大会プロデューサー小松崎が5人目の審査員を務めました）。厚く御礼申し上げます。

メモ

問題分析編

問題分析編・概要

問題分析編では、公共空間の現在の使われ方や公共空間が抱える問題、そしてその問題がなぜ解決されていないのか、さらには社会にはどのようなニーズを抱えている人がいるのかを多面的・多角的に分析していただく問題設計といたしました。

1. 身の回りの公共空間について調査・分析
   (1)身の回りの公共空間を二つ選び、それらがどのような目的で整備され、どのような機能を有しているかを調べてもらいました。
   (2)(1)で選んだ公共空間について、実際に現地調査や聞き込み調査を行い、本来の役割が果たされているのかどうか、公共空間が担える新たな役割の可能性、公共空間が抱えている問題やそれが解決されない理由を考察してもらいました。
2. 保育サービスを例に、国や自治体が無料あるいは安い価格で提供しているサービスに関しての検討
   (1)保育サービスの公定価格がどのように決められているかを調べてもらいました。
   (2)保育サービスの抱える問題について分析してもらいました。
3. SDGsに上げられている17のゴール・169のターゲットから一つを選び、社会が抱えるニーズを抽出
   (1)実際にターゲットを選定してもらいました。
   (2)選んだターゲットをもとに、具体的に困っている人を設定してもらいニーズの抽出をするペルソナを行ってもらいました。

全11校（複数校混成チームは1校とカウント）38チームからの応募があり、イノベーション編出場チームを選出するとともに、問題分析編優勝校・準優勝校を決定しました。

高校名（混成チームはチーム名）	チーム数	高校名（混成チームはチーム名）	チーム数
愛媛県立松山西中等教育学校	3	常総学院高等学校	1
香川県立観音寺第一高等学校	1	第一学院高等学校 高萩校 四ツ谷学習センター	2
國學院高等学校	1	徳島県立脇町高等学校	16
国際基督教大学高等学校	1	広島学院高等学校	2
品川翔英高等学校	1	広島県立広島高等学校	8
芝浦工業大学附属高等学校	2		

問題分析編・詳細

応募期間

応募開始 2022 年 6 月 1 日（水）9 時 00 分
応募〆切 2022 年 7 月 12 日（火）18 時 00 分

応募資格

- 対象は高等学校・高等専門学校の生徒とします。中等教育学校の場合は後期課程の生徒（4～6年生）を対象とします。
- 1チームの構成人数は4～6名とします。
- 複数校による混成チームを認めますが、顧問教員（代表）と各校責任教員、代表学生を必ず決めてください。なおこの場合、優勝または入賞した際には、トロフィーは顧問教員の所属校に授与し、賞状はチーム構成員の所属校すべてに授与いたします。(顧問教員がいら っしゃらない場合は実行委員会までご連絡をお願い申し上げます。)
- オンラインでの開催の都合上、技術的制約等でイノベーション編への参加が困難な生徒・チームも問題分析編のみでの参加が可能です。ただし、問題分析編に参加していない生徒がイノベーション編のみに参加することは、原則として認めません。

応募方法

以下の二つ。

- オンラインフォームでのエントリー
- 以下を添付したメールを（innochan2022@gmail.com）まで送付。

課題に対する解答
手書きで情報を記述して写真を撮ったもの、またはデジタル制作したポスター、スライド、ドキュメント等、形式は問いません。

審査基準

- 現状分析・課題発見力
- 課題に取り組んだプロセス
- 分析結果の論理性と論拠（エビデンス）の明確さ

大会プロデューサー総評

東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 准教授
小松崎俊作

イノチャンは社会イノベーションによる社会的課題の解決，あるいは新しい価値の創出・提案を目指し，それに寄与する人材（以下，社会イノベーション人材と呼びます）の育成に貢献することを企図しています．持続可能な開発目標（SDGs）のように，国内外で共有される社会的価値を念頭に置きつつ，国内で重要性を増しつつある社会課題にかかわるテーマを毎年選択するようにしています．

第5回イノチャンでは，「市民や社会のニーズに応える公共空間の新しい使い方」をテーマに選択しました．たとえば，福岡市天神地区の警固公園は，かつて夜間はハント族やホームレスなどが現れ，けんか・恐喝・落書き・性犯罪等が発生する危険な公園となっていました．県警のパトロールや防犯ボランティアらの活動では解決されなかった問題でしたが，2010年から行政・警察・市民・大学共同で警固公園対策会議を発足させてデザインを検討し，再整備を実施したことによって，治安・体感治安がともに改善したばかりか，周辺商業施設のリニューアル，利用者の動線変化にもつながっています．海外でも，南米コロンビア・メデジン市は，多くの住民が自衛のために家に閉じこもっていたほどの有名な犯罪都市でしたが，公園図書館プロジェクトや公共交通機関整備などを含む都市計画によって大きく変貌し，2013年にはWall Street JournalとCitigroupによる”Innovative City of the Year”コンテストで1位に選出されるほどに成長しています．人口10万人あたりの殺人率も24人にまで激減し，特にベレン地区公園図書館プロジェクトでは，完成後には住民が屋外の公共空間に笑顔で集うようになるという大きな行動変容がもたらされました．市民や社会の（ときに潜在的な）ニーズに応え，新たな価値や行動変容を生み出す可能性を秘めた公共空間は，未来の社会イノベーション人材育成を目指すイノチャンのテーマとしてふさわしいものだと考えました．

問1では，皆さんの身のまわりの公共空間に期待される社会的ニーズとそれに対応した機能，またそれぞれの実態について，資料と調査の両面から調べていただきました．事例の適切な選択，資料に基づく機能の整理など，皆さんの成果は総じて優れた内容であったと思います．特に，多くのチームがしっかりとした現地調査を実施してくれたことは期待以上でした．さらに注文をつけるとすれば，問1では社会的ニーズと制度・機能の関係を深く考察することで，公共空間は政府だけでなく市民・民間企業等がともに形成・運営していることや，制度で想定される社会的ニーズと実態との違い，またその原因などを議論していくことができるでしょう．こうした発展的分析に及んでいたチームは限られていたように思います．

（次頁へ続く）

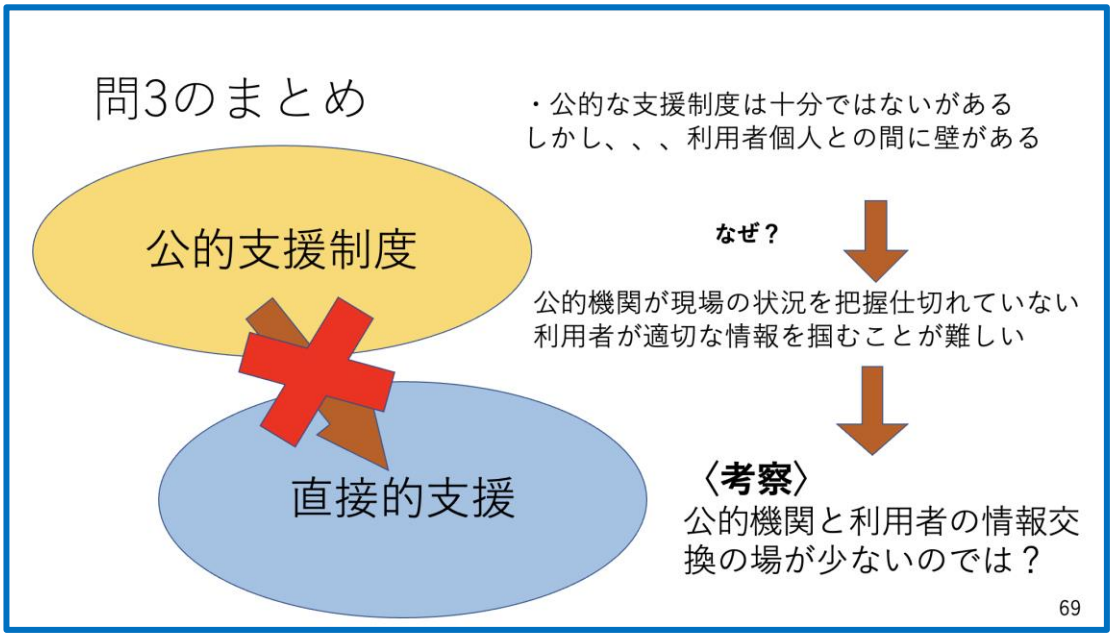
問2では，保育所・幼稚園・認定こども園という事例を対象に，問1で検討した公共空間の機能設計と，そこにおける官民（民は企業だけでなく市民も含む）の関わりを具体的に記述していただくことで，現実の社会環境におけるバランスの取り方，影響要因，官民それぞれの役割などについて理解・共感を得ることを期待していました．公定価格の役割の中で，官が負う安全確保の責任については，制度を調べてうまくまとめてくれたチームが多かったです．一方，公定価格が官民（市民含む）のバランスを取りながら，サービス水準を一定以上に保つための仕組み（サービスと費用が高すぎても低すぎてもいけない）であること，特に市民と運営企業の関わり方（利用者負担額の考え方，運営企業の確保という観点，税金によって賄われる公費負担と市民の関係など）について考察を進めてくださったチームはごく一部にとどまっていました．皆さん高校生にとっては「ユーザー」視点で考えることが難しい事例であったかもしれませんが（問題文の書き方の問題かもしれませんが），問1と比較すると，公共空間の「公」「官」の部分に分析が集中してしまったので，公的価格やサービスの「上限」についてなど，ぜひ振り返りを実施していただくと良いのではと思います．

問3は，困りごとを抱える人々の人物像（専門的には「ペルソナ」と呼ぶことがあります）を設定して，選択したSDGsのターゲットと関わるニーズ（問題意識）を具体的に分析する課題でした．社会イノベーションのアイディア創出においては，課題を一般化しすぎると，〇〇という法律を作るといった極めて「大味」で，正直あまり新規性のないアイディアに陥りがちです．そこで，できるだけ具体的な人物像を想定して，その人の視点から見たとき，特にどのような場面でどういう思いを抱くのかを考えることで，議論する「問題」をより細かく見ることができるようになると思います．そうした個別具体的な問題の捉え方が，新規性のあるアイディア創出を生む可能性を高めると考えています．多くのチームではやや一般化された人物像が想定されていましたので，具体的な個人を想定することにもぜひ取り組んでみてください．
ところで，想定する人物像というよりは，問題分析に用いた枠組みや課題の概念化などの点で，様々な創造的かつ効果的な取り組みが見られ，期待以上の成果になったと感じています．一部のチームは，5つの事例の共通項や相違点を考えることを通して，社会的ニーズと制度とのギャップや公的機関の限界など，本質的な論点・課題を抽出することまで到達しており，極めて高度な分析が見られました．問題の精緻な分析を行ったチームでは，現状の対策の限界と，問題が解決されない理由について，さらに調査を進めてみることもできると思います．

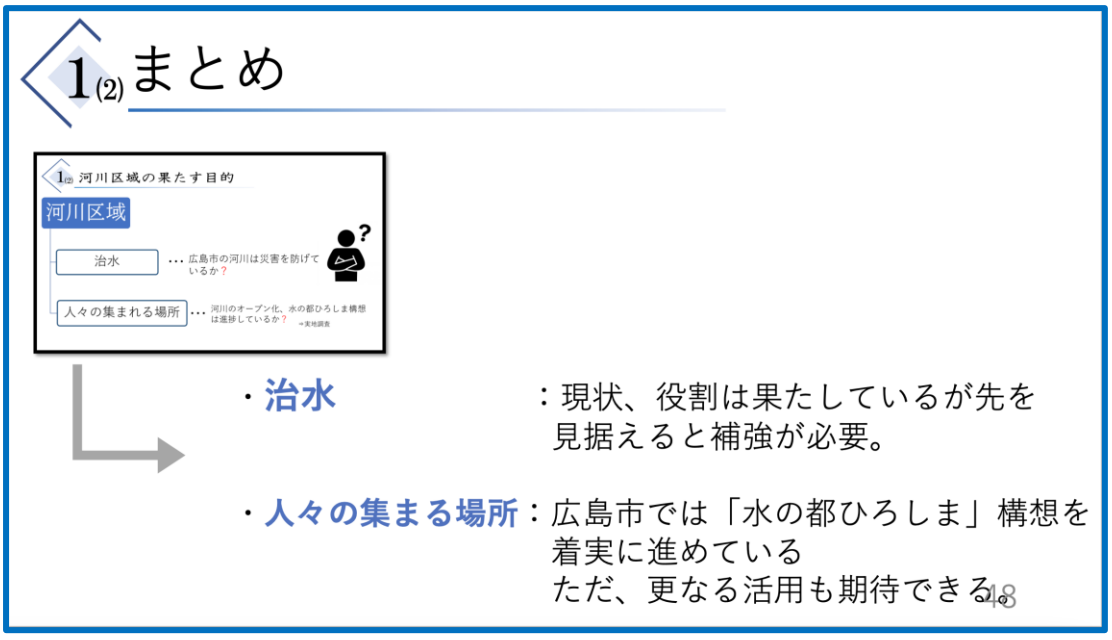
問3に関する総評で触れた通り，問題分析とアイディア創出は相互に関連したプロセスです．特に具体と抽象の両面で問題を考察していくことが，創造的なアイディアをつくる上で重要になると思います．イノベーション編に進出された方は，イノベーション編でのアイディア創出において，問題分析編での取り組みがどのように活かされたか，ぜひ振り返ってみてください．
皆さんの今後のイノベーション活動や教育・実践の中で，イノチャンの経験が有益であったと感じていただけることを願っております．第5回イノチャン問題分析編へのご参加，誠にありがとうございました．

問題分析編・大会結果

優勝　OMUバタ（広島県立広島高等学校）
準優勝　Resonance（広島学院高等学校）



▲OMUバタ（広島県立広島高等学校）より



▲ Resonance（広島学院高等学校）より

メモ

イノベーション編

イノベーション編・概要

イノベーション編では、問題分析編で分析していただいた情報をもとに、主催側が設計したWS(=ワークショップ)に基づいて具体的にアイディア創出をしていただきました。本大会は8月16日(火)・17日(水)にZOOMで開催され、1日目にアイディア発想WS、2日目には最終発表として各チームが考えてきたアイディアを発表していただきました。WSは二種類のパターンを用意しており、問題分析編の成果物の内容に応じて各チームに適した方に取り組んでいただきました。一方は公共空間の限界・問題点を抽出し、これまでのイノベーションの事例をもとに新たな公共空間の在り方について考えるWS、もう一方は具体的な人物設定から社会のニーズを抽出し、先ほどと同様に事例からの示唆と掛け合わせて公共空間の新たな可能性を考えるWSとなっております。

イノベーション編・参加チーム

チーム名	高校名	人数
あしゆ	国際基督教大学高等学校	5
えんじがーるず	常総学院高等学校	6
スティッチ	広島県立広島高等学校	4
たまごかけごはん	香川県立観音寺第一高等学校	5
パレット	愛媛県立松山西中等教育学校	6
ホットケーキミックス	品川翔英高等学校	4
メロンフラペチーノ	國學院高等学校	4
レボリューション	徳島県立脇町高等学校	6
Fumitan	第一学院高等学校 高萩校 四ツ谷学習センター	4
OMUバタ	広島県立広島高等学校	6
Resonance	広島学院高等学校	5
STAGE	芝浦工業大学附属高等学校	5

イノベーション編・タイムテーブル

1日目

時間	内容
9:00	開会式
9:30	堀井先生アイデア発想手法講義
9:50	ワークショップ開始
12:00	ご講演
12:10	お昼休憩
14:00	中間発表・再試行
16:00	中間発表時間終了
16:50	ワークショップ終了・ご講演
17:05	懇親会
17:40	1日目終了

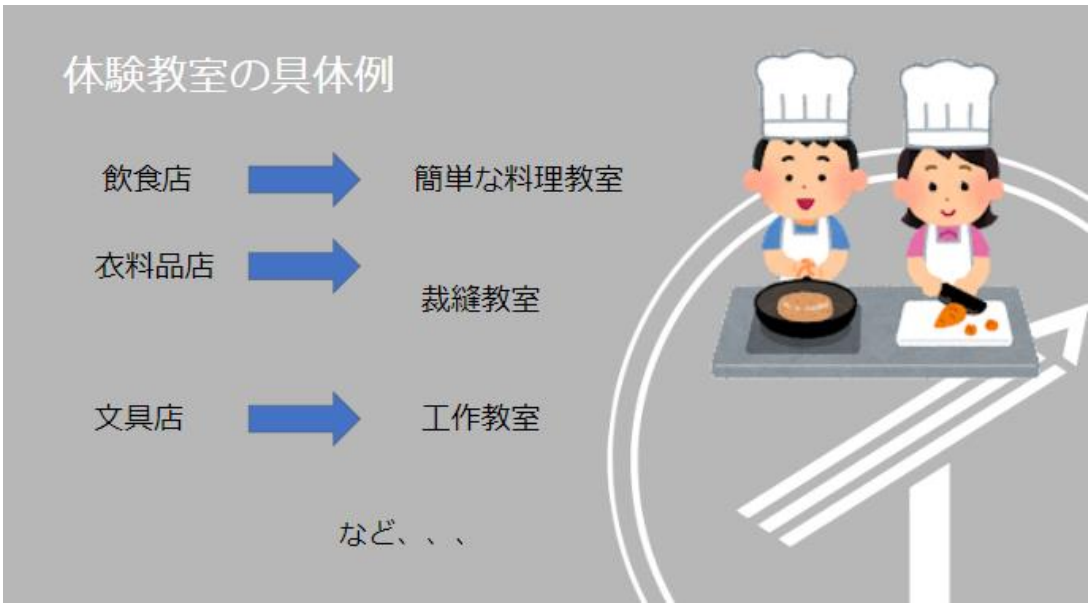
2日目

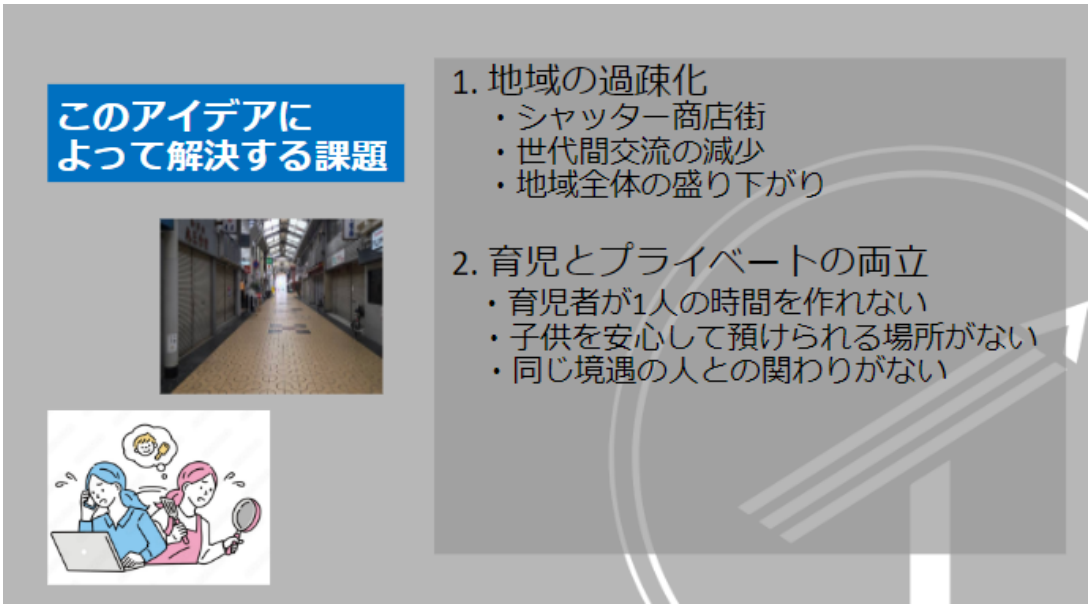
時間	内容
9:00	発表準備
10:05	ご講演
10:15	最終発表
13:00	お昼休憩
14:45	閉会式・結果発表
15:00	2日目終了

イノベーション編・大会結果

優勝　たまごかけごはん（香川県立観音寺第一高等学校）

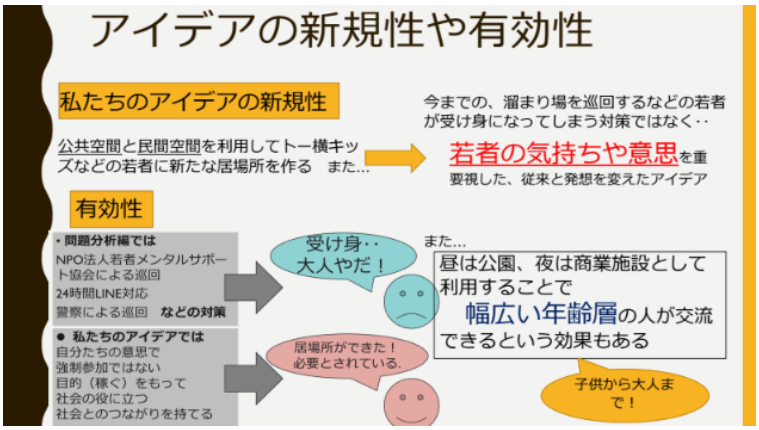
商店街の空き店舗等を用いて保育所を開設し、また幼児教育の一環として商店街の各店舗が持ちまわりで預かりスペースと子どもが楽しめるお店の特色を生かした体験教室を開催する。このアイディアによって過疎化していた地域の再興、育児者がプライベートの時間を確保したり同じ悩みを持つ他の育児者との交流の場を生み出すことができる。





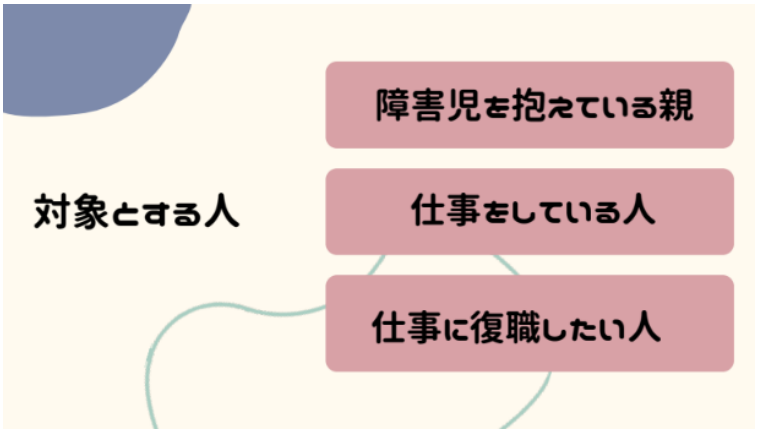
準優勝　スティッチ（広島県立広島高等学校）

行き場のない子どもたちに将来に役立つ仕事の機会や、同年代の似た境遇にある仲間との交流の場を設け、居場所を提供し、状況を改善する事を目的としている。このアイディアでは、公共空間である公園に、利用者が少なくなる時間帯を利用して民間企業によるお店を出店し、居場所のない子供たちを雇う。



準優勝　ホットケーキミックス（品川翔英高等学校）

支援が行き届きにくい障がい児を利用時間前の学童や放課後等デイサービスの施設を用いて保育する。このアイディアにより、①保護者の就職・復職②障がいを持つこどもを安全に預けられる施設③障がいを持つこどもが幼児教育を受ける機会を実現することができる。



審査員特別賞　STAGE（芝浦工業大学附属高等学校）

携帯電話の普及に伴って使われなくなりつつある公衆電話をより日常使いのできる場としてのアイディアを提案。具体的にはラジオ後にラジオパーソナリティーと公衆電話を通じて話せるというものであり、これにより若者を含めて公衆電話の認知度を上げたり、親しみを上げることを図り、公衆電話の本来の使われ方を促している。

大会広報

大会ホームページ

イノチャンホームページにはイノチャンがどういう大会であるか、大会のコンセプトや社会イノベーションの事例、大会に当たってどのように取り組むべきか、今大会における審査員の方のプロフィール、協賛・後援してくださった企業様・団体様、過去大会についてなどを掲載しております。モバイル対応やデザインの更新など抜本的な改善を図って、今大会からリニューアルしました。
(http://innochan.x0.com/)

▲大会ホームページより

Facebook

イノチャンのFacebookでは委員の活動や大会結果といった情報をいち早くお届けしております。

▲大会Facebookより

その他

本年度は、テレビ局やオンラインメディアに対し、ビラを作成し、オンラインフォームやメールで問い合わせを行いました。

審査員 (敬称略)

荒井 詩穂那

株式会社首都圏総合計画研究所研究員／一般社団法人ソトノバ理事
都市計画コンサルタントとして、自治体の総合計画・地区のまちづくり計画等の策定業務や地域主体のまちづくり支援に従事する傍ら、パブリックスペースに関するメディアプラットフォーム「ソトノバ」を運営し、メディア発信やエリアマネジメント・プレイスメイキング等のプロジェクトに関わる。
GOOD DESIGN AWARD 2016「公園活用 パークキャラバン」

上田 假奈代

詩人・詩業家
大阪公立大学都市科学・防災研究センター研究員、NPO法人こえとことばとこころの部屋（ココルーム）代表理事。堺アーツカウンシル　プログラム・ディレクター。大手前大学非常勤講師
1969年・吉野生まれ。3歳より詩作、17歳から朗読をはじめる。2001年「ことばを人生の味方に、詩業家宣言」。2003年、大阪・新世界で喫茶店のふりをしたアートNPO「ココルーム」を立ち上げ、釜ヶ崎に移転し、2012年「釜ヶ崎芸術大学」開講。2016年ゲストハウスのふりもはじめ、釜ヶ崎のおじさんたちとの井戸掘りなど、あの手この手で地域との協働をはかる。

澁谷 遊野

東京大学空間情報科学研究センター 准教授 / 博士（社会情報学）
宮城県仙台市出身。慶應義塾大学文学部哲学専攻を卒業後、東日本放送で報道記者として事件・事故・司法関連及び東日本大震災の取材・番組制作等に携わる。その後、東京大学大学院学際情報学府にて修士課程及び博士課程修了。博士課程では、ビッグデータに基づく災害復旧・復興をテーマに研究に取り組む。2019年から東京大学大学院情報学環で特任助教として研究に従事し、2022年から東京大学空間情報科学研究センター准教授を務める。現在は行動変容、デジタル・ツイン、市民参加等をキーワードに研究に取り組む。研究の傍ら東京大学公共政策大学院　科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」教育・研究ユニット（STIG）等共催のチャレンジ!!オープンガバナンスの事務局も担当してきた。

堀井 秀之

i.schoolエグゼクティブ・ディレクター。JSIC（日本社会イノベーションセンター）代表理事。東京大学名誉教授。1980年東京大学工学部土木工学科卒業、ノースウェスタン大学大学院修士課程・博士課程修了。元東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授。専門は社会技術論、国際プロジェクト論、イノベーション教育論。2009 年i.schoolを設立、エグゼクティブ・ディレクターとして、i.school運営を統括する。2016年JSICを設立、代表理事に就任。著書に「問題解決のための『社会技術』」（中公新書）、「社会技術論：問題解決のデザイン」（東京大学出版会）など。

小松崎 俊作

東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻准教授・本大会プロデューサー。元i.schoolアシスタント・ディレクター（2014~2018）。東京大学工学部土木工学科を卒業後、ラトガース・ニュージャージー州立大学に約4年間留学し、政策科学・公共政策学を学んだ。研究面では分野横断的なバックグラウンドを活かして、特に社会イノベーション創出に貢献する公共政策の形成過程をテーマとしている。問題解決策（政策）の設計・実装という課題意識に基づき、社会基盤学の学生・実務者はもちろん、海外や高校生も含めた幅広い対象にイノベーション教育を実践している。

審査員業務について

事前準備

・当大会のホームページ等に掲載する写真および紹介文の送付
当大会のホームページ等で公開する、審査員の方の写真と紹介文をお送りいただきました。

・当日の流れのご確認
本大会の開催に先立ち、審査員の方に資料を送付し、zoomによるオンライン会議にて当日の流れなどについてご確認いただきました。

当日

・ご講演
開会式では堀井様からイノベーションワークショップついて、１日目午後には荒井様からご自身が携ってこられたプロジェクトについてのお話をいただきました。また、初日ワークショップ終了後には、澁谷様からデジタルツインについてご講演をいただきました。２日目午前には上田様から、ご自身のこれまでの体験をもとに貴重なお話をいただきました。

・高校生のワークショップへの助言（１日目）
１日目のワークショップの際に、審査員の方々には各チームを回っていただき、ワークショップで高校生が考えたアイデアについてブラッシュアップのためのフィードバックをしていただきました。

・アイデアの評価およびコメントの記入（２日目）
審査員の方には各チームの発表を聞きながら、各チームのアイデアを評価いただきました。また，高校生に向けてのコメントを記入いただきました。

・講評（２日目）
最終結果発表の際に、各審査員の方々に１人ずつコメントしていただきました。また、大会全体を総括した講評をいただきました。

・写真撮影（２日目）
閉会後、審査員の方や高校生含め、当大会に関わった全員で記念撮影を行いました。

決算

収支計算書

令和4年度　収支計算書

自. 令和4年1月1日　至. 令和4年10月5日		全国高校生社会イノベーション選手権実行委員会	
収入の部			（単位：円）
科目		摘要	決算金額
前年度繰越金			2,772,325
寄付金	寄付金	企業協賛金	808,000
事業収益	事業収益	広告掲載費	560,000
当期収入合計			1,368,000
収入合計			4,140,325
支出の部			（単位：円）
科目		摘要	決算金額
管理費			647,341
	広告宣伝費	ポロシャツ代，HP作成代	396,542
	事務用品費	賞状印刷代	59,040
	外注費	謝礼金	40,000
	消耗品費	トロフィー代，賞状梱包代等	124,806
	旅費交通費		846
	通信費	切手代，送付代金	13,262
	支払手数料	各種振込手数料	2,045
	会議費	教室貸与料	10,800
当期支出合計			647,341
次年度繰越金			3,492,984
支出合計			4,140,325

本年度の予算の余剰分は、大会ホームページの改良や大会動画の拡充、令和4年度から開始した地域の高校等における出張イノベーション教育をはじめとした地域における直接的な教育活動の拡大等、大切に活用させていただきます。

なお、本年は参加者や参加を検討する生徒・保護者・教員らが多く閲覧するホームページを、最新のデザイン・システムに更新することに一定の支出を行いました。今後もホームページや大会紹介動画等、広報における主要な素材については定期的に大規模更新を行って、取り組みの普及に努めてまいります。

参加した高校生の感想

本大会に参加してくださった高校生の皆様へのアンケート調査を通して、本大会へのご感想・ご意見を多数頂きましたので一部抜粋してご報告いたします。

問題分析編への感想

問題分析編では、「市民や社会のニーズに応える公共空間の新しい使い方」というテーマに沿った情報収集と問題分析を行う課題を出しました。

取り組んだ高校生からは、「問題の趣旨を読み取ることが特に難しかった」、「地域での課題が多くあり、絞るのが難しかった」、など、問題自体の難しさや分析する対象を設定する段階での難しさが多く聞かれました。同時に、「考察やそこから考えられる課題を考えていくのが大変だった」が「色んなグラフや研究結果を探して考えられることを見つけた」など、難題に対して思考の助けになる資料を探そうとする意欲的な姿勢も伺えました。

また工夫したこととして最も多かったのは「見やすく、できるだけ具体的になるようにした」、「思考の流れが伝わるように」した、など、スライドでのまとめ方・伝え方についての工夫でした。その他、「3問の問題に一貫性をもたせながら作成」した、「グラフやアンケートを活用して説得力のあるものにした」、「公共空間という漠然なものに対して、オリジナリティを出そうとした」、など、様々な工夫をして取り組んだことがわかりました。

ワークショップへの感想

イノベーション編では、高校生がイノベーションワークショップに参加し、公共空間の新しい使い方に関するアイデアを創出しました。

参加者たちは、「みんなで話し合う時間と1人で考える時間を分け」た、「チームメンバーが提示した案に対して批判的な意見も交えながら議論をした」など、グループワークを行う上での工夫や、「全く関係の無いことから考え」たり「ちゃぶ台返しをし」たりして多くの視点を持とうとする工夫などをして取り組んだようです。

また、「現実性と新しさの双方を兼ね備えたものを考えるのが難しかった」、や、「さらに違う方向からアイディアを堀り下げていくことが難しかった」、という感想、そして同時に「メンバーとの話し合いの中で、より優れたアイデアを一緒に作り上げることができるようになった」、「なかなか意見が出なかった際に、多角的な観点から考えるという姿勢が身についた」という意見がありました。アイディアの発想や発想したアイディアの改善に関する課題を感じつつ、それぞれのチームで模索する中で、グループ或いは個人として成長したことを示唆するコメントが多く見られました。

大会全体についての感想

大会全体を通して、「自分がそこにいたら何をしていくか、その立場だったらどういう感じを受けるか、みたいなことを強く意識をすること」を学んだ、「アイデアを考えるまでのプロセスがこれまで限られた方法でしか出せていなかったものが、たくさんの方法でアイデアを出せるようになった」、「より身の回りの公共空間で起こる問題を考えれるようになった」などの感想がありました。皆さんそれぞれにとって意義深い学びのある大会となったようです。また、この経験を高校の探究学習でも生かしたいという意見も多数寄せられました。

一方で「オンライン上でコミュニケーションをとるのが難しかった」、「学校のフィルターがかかっていたため、apisnoteを使うことができなかったのが残念だった」、「Slackを使い慣れてない参加者が多いので、Slackを使うのは少し不便なのではないかと感じた」など、オンライン開催やそのほか使用したツールに関するご意見もお寄せいただきました。今後に生かすとともに、対面で再び開催できる日が来ることを切に願います。

実行委員学生の感想

今年度のイノベーション編にて掲げた「市民や社会のニーズに応える公共空間の新しい使い方」は、社会基盤を専攻する私にとって身近な分野であり、高校生の議論を傾聴することで、私にとっても多くの刺激・学びを得られる時間となりました。
また同時に、ワークショップに臨むうえで期待される能力の片鱗が、イノチャンに参加した高校生たちの議論の中で垣間見えたことも非常に印象的でした。例年、審査員を務めていらっしゃる堀井先生のお言葉を借りて、イノベーティブなアイディアを創出するにあたってはスキルセット・マインドセット・モチベーションが必要だと言われますが、スキルを学ぼうとイノチャンに参加した高校生の中で既にスキルが醸成されていたことは驚きを感じるものでもありました。
特に驚いたのは、DPとして議論を傾聴していたとき、交わされる言葉・意見の多くがアイディアをより良いものにしようとする立場に立った建設的なものになっていたことです。普段からの付き合いがあるチームだからこそ、議論が馴れ合いのようなものになってしまう可能性も懸念されていましたが、チームのコンビネーションを高め、議論の最中には目的や問題点の確認など必要なステップを適切に経ながら進めていた点は私も学ばなければいけないと強く実感させられるものでした。

（実行委員 修士2年）

私は文系の学生なので、工学系の大会であるイノチャンにDPで参加すると知らされた時は正直不安でした。実際、ぶっつけ本番でうまく出来たとは言えないですが、なんとかDPという役割を終えることができました。DPを終えて感じたことは、イノチャンは工学部主催の大会ですが、その内容は文理の別に関係のない普遍的なものだと感じさせられました。そして、高校生が予想を超える素晴らしいアイデアを出してくることに心から驚きました。工学部に進学することはないと思いますが、今回イノチャンで経験したことは今後にとても活きると思います。素晴らしい経験をありがとうございました。

（実行委員 学部1年）

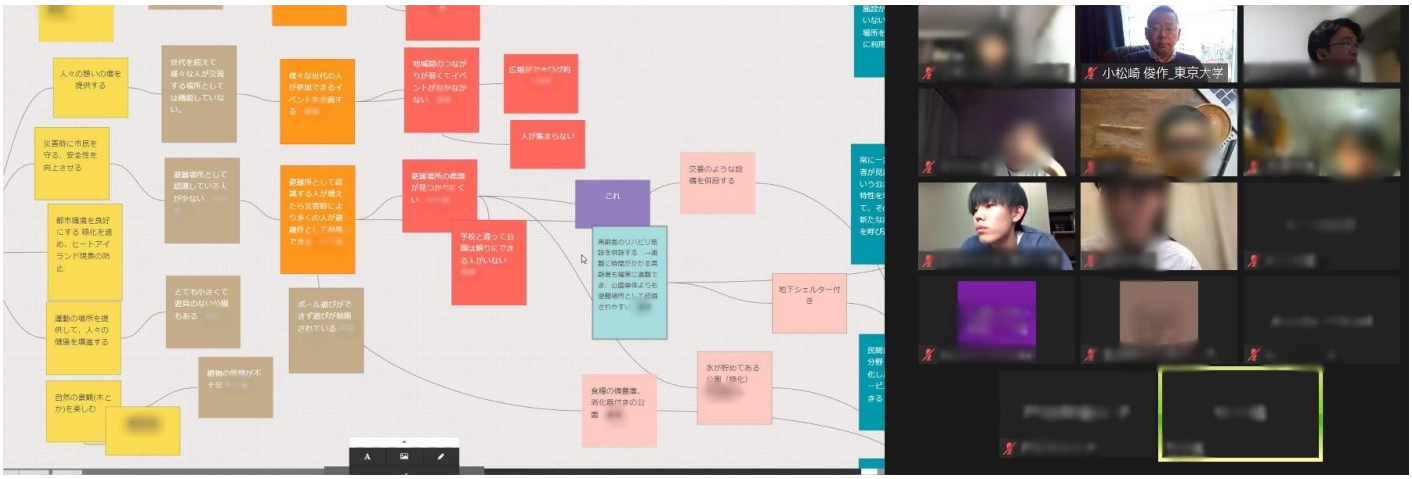
イノチャン本大会に関連した取り組み

（1）東京大学メタバース工学部ジュニア講座「イノチャン in メタバース工学部」

東京大学工学部は，すべての人々が最新の情報や工学の実践的スキルを獲得して夢を実現できる社会の実現を目指して，工学や情報の学びの機会や工学キャリアに関する情報を多様な人々に提供するために東京大学メタバース工学部（https://www.meta-school.t.u-tokyo.ac.jp/ ）を今年度設立しました．その中で，工学や情報の魅力を早期に伝えるため，中高生を主たる対象としてジュニア工学教育プログラム（略称：ジュニア講座）を提供しており，メタバース工学部設立に先駆けて実践していたイノチャンでも，これまでの成果を活用したジュニア講座「イノチャン in メタバース工学部」を提供することにしました．

「イノチャン in メタバース工学部」は，過去大会で実施したワークショップを抜粋したシリーズ（2022年11月～1月，全3回）です．複数のワークショップを通して経験することで，アイディアを生み出す方法論をより深く学んでいただくことを狙っています．

全国の中学生から社会人まで幅広く43件の申し込みがあり，本報告書執筆の段階（2022年12月）では第1回ワークショップ（11月）を完了しています．メタバース工学部での経験を経てイノチャン本大会を目指す学生が出たり，イノチャン本大会をきっかけとして継続的なイノベーション教育に関心を持った学生がメタバース工学部に参加したりといった相互補完的な関係が生じることを期待しています．



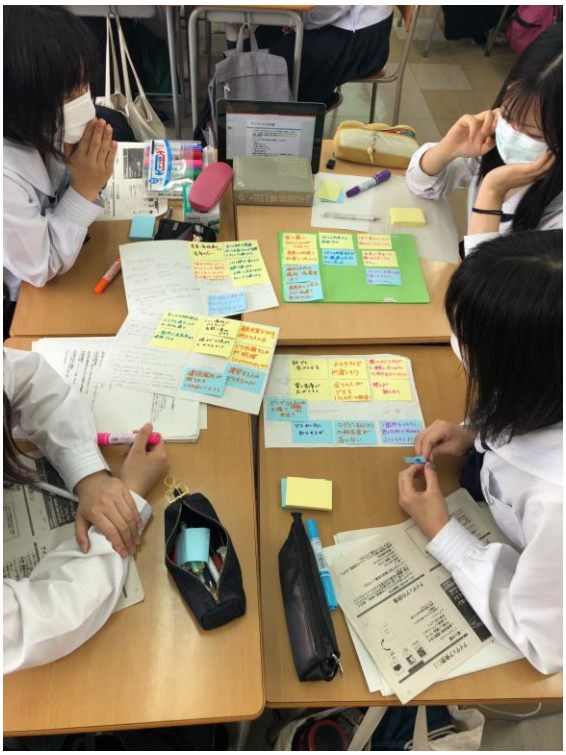
▲イノチャン in メタバース工学部の様子

（2）地域の高校等における出張イノベーション教育

イノチャンへの参加を通して，本学発のイノベーション教育への関心を高めた高校等において，出張イノベーション教育（オンライン含む）を提供することにも取り組んでいます．徳島県立脇町高等学校は2019年の第2回イノチャンから継続して参加しており，2021年の第4回大会ではイノベーション編優勝の実績も残しています．イノチャンをきっかけとして同校と協働の機会を議論する中で，地元の徳島大学の協力も得て通年の教育プログラムが立案されました．2021年度から同校生徒（ワークショップにより30～80名程度）を対象としてプログラムが実践されています．教室の中で閉じたワークショップだけでなく，民間企業や地元自治体などの協力も得て，実社会の情報を活用したイノベーションワークショップが提供されています．また，2022年度秋からは上記メタバース工学部ジュニア講座としても開講しており，対面実施している脇町高校生だけでなく，オンライン参加の多様な参加者とともに学ぶ環境を構築しつつあります．

同様の出張イノベーション教育が，これまでのイノチャン参加校を中心に計画されています．イノチャン本大会はあくまできっかけであり，アイディア創出の方法を体系的に学んで実践できるようになるためには，継続的な教育機会につなげていくことが重要であると考えています．

▲徳島県立脇町高等学校での
プログラムの様子▶



来年度以降に向けて

来年度以降に向けて

本年度のイノチャンは、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、前回に引き続きリモート開催となりました。参加してくださった高校生のみなさんはオンラインツールを活用して活発な議論を行っており、最終発表でのアイデアはどれも独創的で非常に興味深いものばかりでした。オンラインでも質の高いアイデアが生まれるという今大会での体験が、ポストコロナの社会で活躍が期待される高校生のみなさんにとって実りのあるものになったことを切に願うばかりです。

今年もコロナ感染が続いて厳しい社会情勢でしたが、ご協賛いただきました企業の皆様、ご参加くださいました各高校の皆様、審査員の皆様をはじめとして、ご協力いただきました大学内外様々な関係者の方々のあたたかいご支援の賜物で本大会を無事終了することができました。来年度以降も継続して、また規模を拡大して大会を開催していければと考えておりますので、今後とも全国高校生社会イノベーション選手権をよろしくお願いいたします。

協賛・後援の紹介

本大会の開催・運営に際しまして、下に掲載する企業様・団体様よりご協賛・ご後援をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

-ご協賛-

JET8
ジェットエイト株式会社

大成建設 TAISEI For a Lively World
大成建設株式会社

SHIMIZU CORPORATION 清水建設
清水建設株式会社

大林組
株式会社大林組

鹿島
鹿島建設株式会社

CTI 未来につづく 安全・安心を 株式会社 建設技術研究所
株式会社建設技術研究所

-ご後援-

JSCE
公益社団法人土木学会

公益財団法人都市計画学会

メモ

第5回イノチャン 大会終了報告書

編集・発行：全国高校生社会イノベーション選手権実行委員会